

FPΣ機種変更の手引き (既存12Kタイプ→V3 32Kタイプ)

12Kタイプでご使用中のプログラムを32Kタイプでお使いになるには、
以下の手順にて実行ください。

従来品
12Kタイプ



V3
32Kタイプ




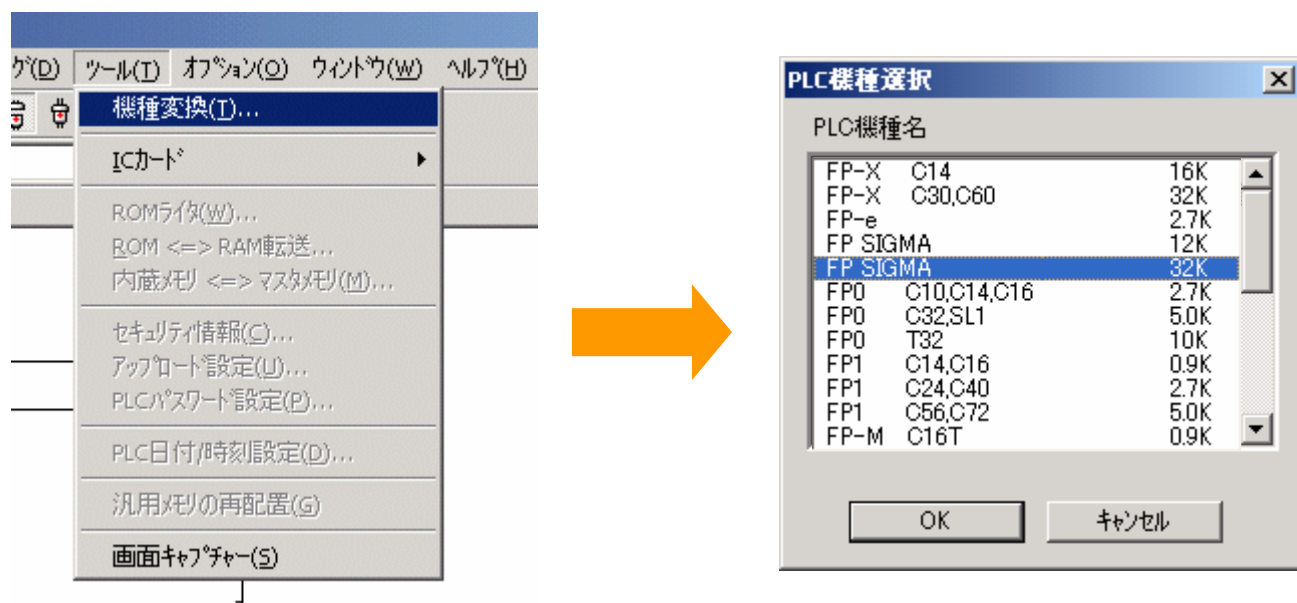
<手順1>	PLC機種変換	P2
<手順2>	システムレジスタ設定	P3
<手順3>	プログラム変更	P4
	方法①	P5
	方法②	P6

↑ 一般的には方法②をお奨めします。

ご注意)
内部リレー固定保持エリアが未使用であればプログラム変更
は不要です。

<手順1> 機種変換

32Kタイプへプログラムをダウンロード  するには、先にFPWIN GRで機種変換が必要です。



—ご注意—

機種変換を実行しますと、自動的にシステムレジスタ設定がリセット(工場出荷設定に戻)されます。

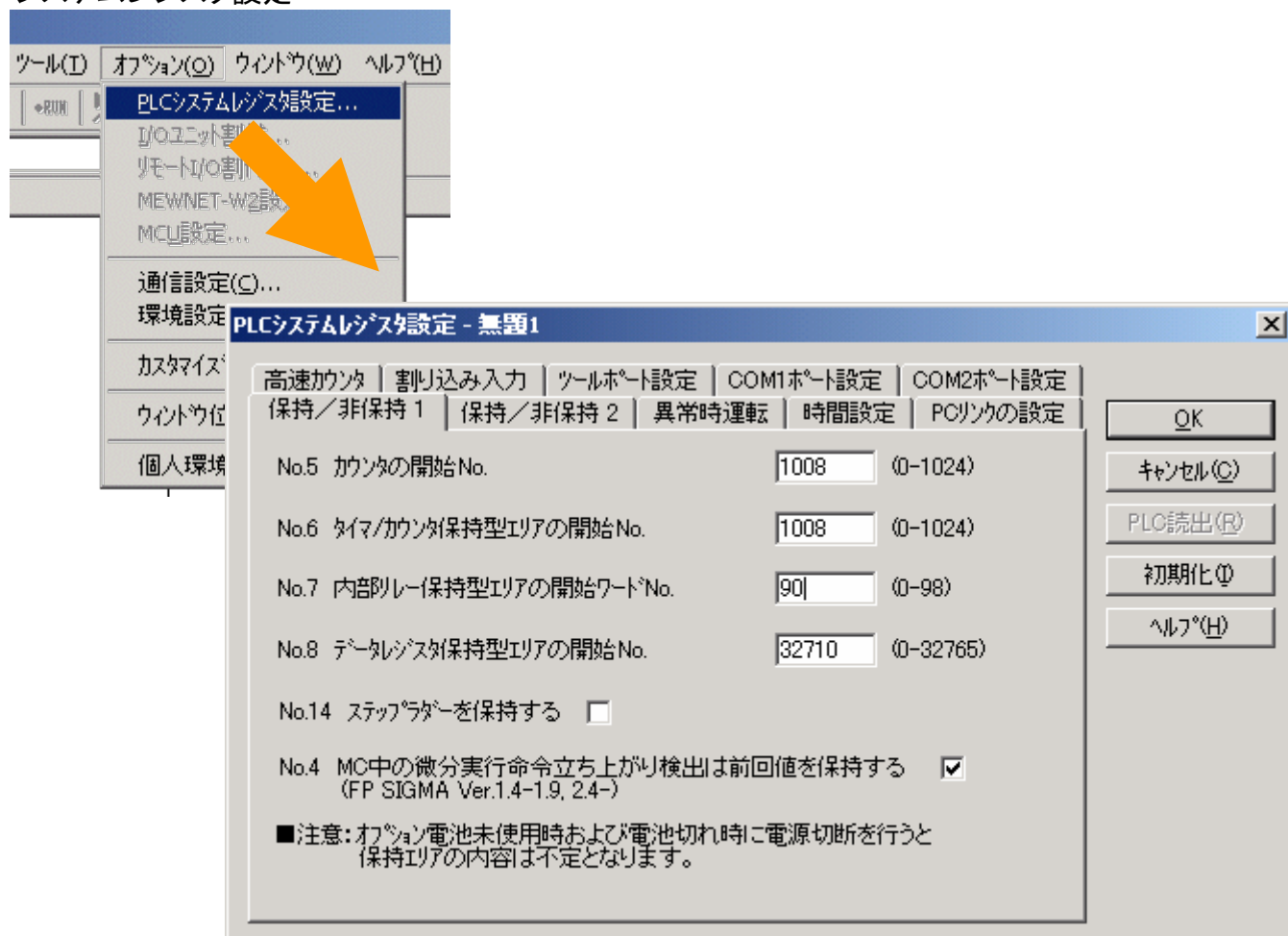
工場出荷設定から内容を変更している場合は、機種変換を実行する前にシステムレジスタ設定内容を書き留めておいて下さい。



<手順2> システムレジスタ設定

システムレジスタ設定がデフォルト(工場出荷時)設定から変更されている場合は、上記手順1で機種変換を行う際、設定値が一旦自動的にリセット(デフォルト設定に戻)されますので、機種変換後、再度設定が必要です。

システムレジスタ設定

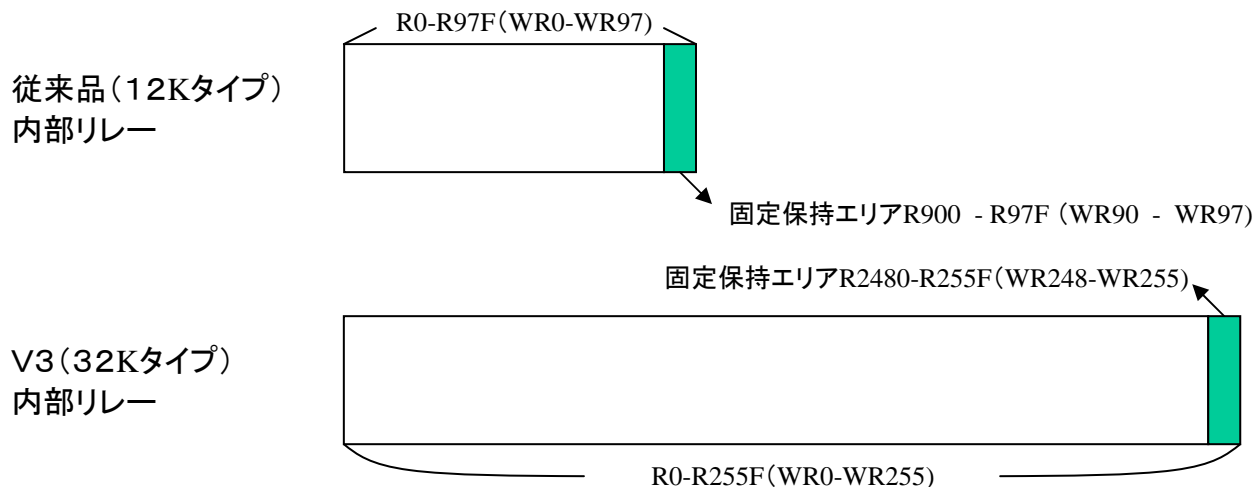


注意)

機種変換を実行する前にシステムレジスタ設定内容を書き留めておいて下さい。

<手順3> プログラム変更

内部リレーの大幅増加にともない、固定保持エリアが下図■部のごとく変更されています。



既存プログラムに保持エリアR900-97F(WR90-WR97)をご使用されている場合、新しい保持エリアへの番号シフトが必要です。

<ビットデバイス番号変更>

$R900-R97F \rightarrow R2480-R255F$

<ワードデバイス番号変更>

$WR90-WR97 \rightarrow WR248-WR255$

具体的変更手順は

方法①:P5

方法②:P6

←こちらをお奨めします。

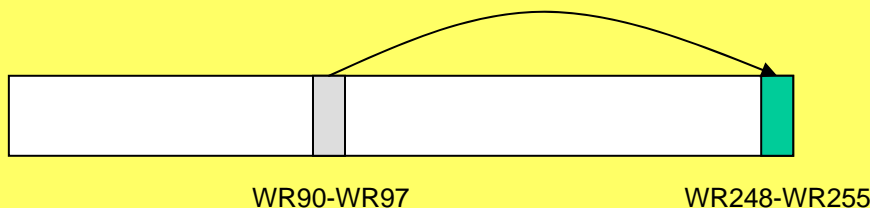
をご参照ください。

FP 機種切り替え(12K→32K)時の既存プログラムの変更方法①

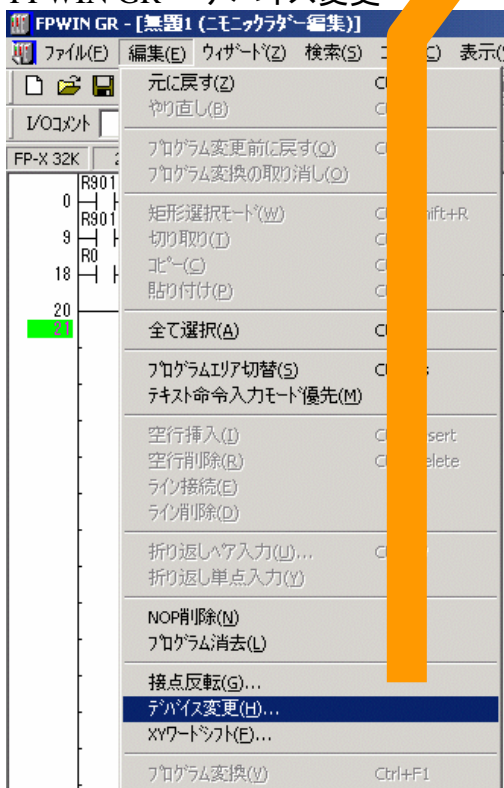
FPWIN GRの編集機能“デバイス変更”を利用して、新しい保持エリアに合うようにR(ビット)、WR(ワード)の番号を一括変更する方法です。

メリット) ラダープログラムを直接編集しないため、比較的容易で変更ミスの可能性が低い方法です。

プログラム中のR,WRの番号をシフトする。



FPWIN GR “デバイス変更”



R(ビット) 番号一括変更



R900-R97F→R2480-R255Fにシフトします。

R(ワード) 番号一括変更

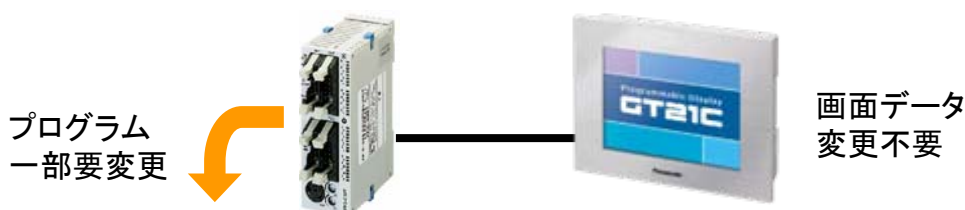


WR90-WR97→WR248-WR255にシフトします。

FPΣ機種切り替え(12K→32K)時の既存プログラムの変更方法②

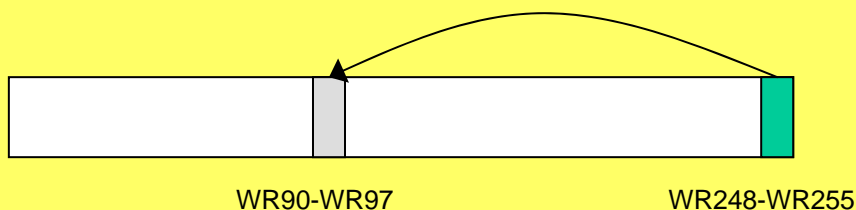
既存部分は変更せず、プログラムの一部追加だけで対応出来る方法です。

メリット) 特に表示器を接続の場合、表示器側のスイッチ、データ部品で参照しているR, WRの変更が不要です。



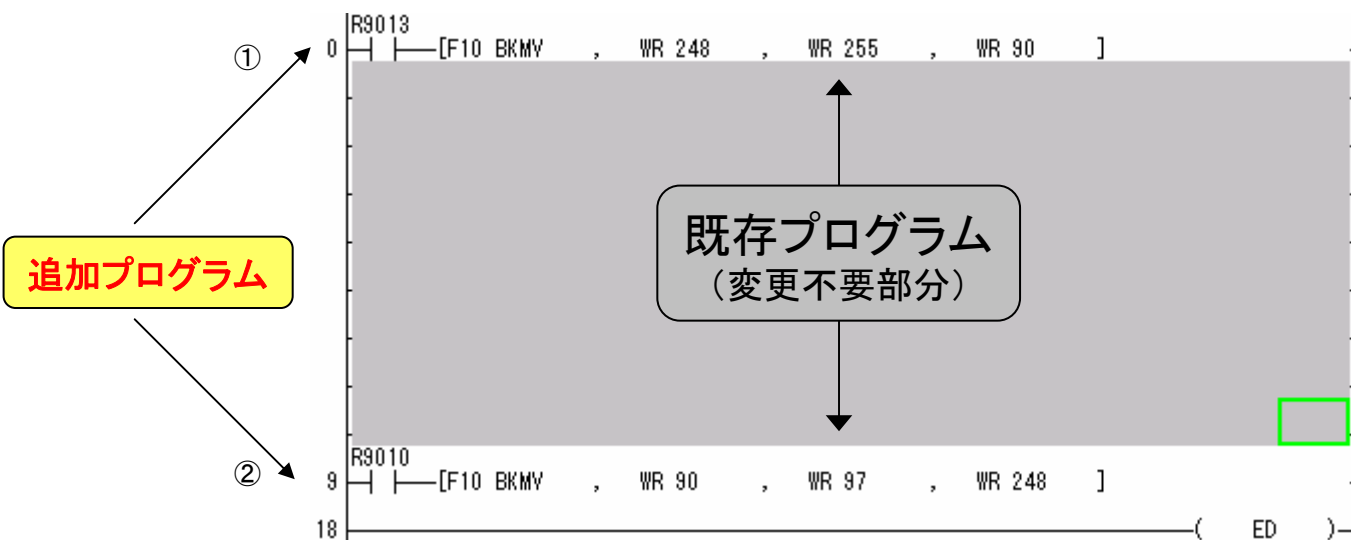
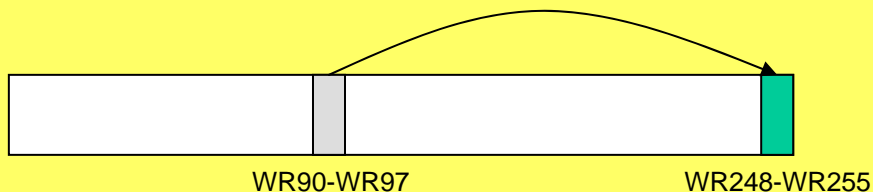
①プログラムの先頭で、

保持エリアデータを従来エリアへ
電源OFF-ON時に1度だけ転送。



②プログラムの最後で、

従来エリアデータを保持エリアへ
常時転送。



(プログラムの説明)

- ① 電源ON時に保持エリア(WR248-WR255)で記憶していた内容を従来の保持エリアであったWR90-WR97へ転送し、電源OFFになる前の状態に戻す。(V3ではWR90-WR97は、電池無しでは保持されない為)
- ② 電源OFFになる前の状態に戻った後は、スキャン中で演算されるWR、もしくは表示器から入力されるRの情報(WR90-97)を保持エリア(WR248-255)へ常時転送し、電源OFF時のデータ保持に備える。